

今年度第1回目の気づき合う講座「ダイバーシティ・スイッチ」(主催:三重県)を開催しました。市民や企業、NPOなどさまざまな81名が参加。映画「聲の形」の上映と上映後に参加者同士で感想を伝え合う「シネマdeトーク」を通じて、ダイバーシティについて考えました。

日時: 2019年11月4日(月・祝) 13:15~16:30
 場所: シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢
 シネマdeトーク進行: 池山敦氏
 (皇學館大学教育開発センター准教授)



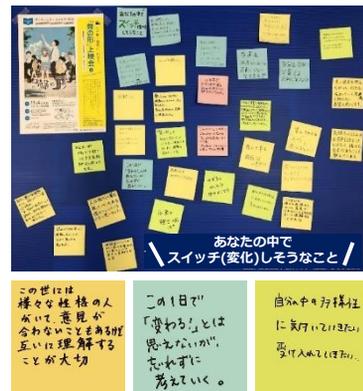
映画「聲の形」とは?

人気漫画「聲の形」を京都アニメーションが映画化。主人公の少年と視覚障がいを持つ少女を中心に、コミュニケーションの難しさや想いを伝える大切さを描く作品です。(2016年公開、129分、日本)



映画上映&シネマdeトークで感想を伝え合う

当日は、映画「聲の形」の上映後「シネマdeトーク」を通じて、参加者同士が映画の感想を伝え合い、価値観や視点の多様性を感じられる企画としました。シネマdeトークは、池山敦氏(皇學館大学教育開発センター准教授)が進行し、2つのテーマで話し合いました。1つ目は「印象に残ったセリフとその理由」。2つ目は「あなたの中でスイッチ(変化)しそうなこと」です。参加者からは「互いに認め合うことの難しさ、大切さを感じた」「先入観を持たずに人に接したい」などの感想が聞かれました。また多くの参加者が自身のSNSなどで参加した感想を発信していただきました。



視のちがいに互いに理解し合うことの大切さを感じました。

感じた事を発信していきたい

この世には様々な性格の人がいる。意見が合わないこともお互いに理解することが大切

この1日だけ「変わる」とは思えないが、忘れずに考えたい。

自分の中に行き止りに気づいてほしい。変えていきたい。

自分と違う価値観の人と、意見が合わないことでも、互いに理解し合うことで、自分を理解し合えると思う。

ダイバーシティ・スイッチ2019 とは...

「ダイバーシティ (diversity)」は日本語に訳すと「多様性」。三重県では、一人ひとりが尊重され、多様性が受容され、違った個性や能力を持つ一人ひとりがよい意味でお互いに影響し合うことで、相乗効果を社会に生み出す「ダイバーシティ&インクルージョン」の意味も込めて「ダイバーシティ」の言葉を使用しています。「スイッチ」は「切り替え」という意味です。社会の中のさまざまな多様性を感じる講座を通して、自分の中の価値観や他者との違いに気づき、他者を思いやることのできる多様性社会に切り替えていく、気づきの場として「ダイバーシティ・スイッチ2019」(全4回)を開催しています。